

つよく、  
やさしい東京へ

東京都議会議員 (立川市)

都議会  
立憲民主党  
The Constitutional  
Democratic Party of Tokyo

松下政経塾出身

元国際企業経営者

鈴木 烈

今回は、昨年10月の都議会補欠選挙(立川市選挙区)で初当選を果たした鈴木烈都議会議員の半年の活動を中心にお伝えします。

都議会レポート Vol.2 (2024年夏号) 発行日: 2024年5月15日

## 公約実現!



### 立川市内の公立小中学校の 給食費無償化がスタート!!

私鈴木烈は、昨年10月の都議会補欠選挙で初当選をいたしました。その際、公約の一番目に掲げたのが「公立学校給食の無償化」です。この政策は、私の前任者の都議である酒井大史現立川市長から引き継いだもの。「今の立川市の財政では、小学校給食しか無償化できない。中学校給食も無償化するために、私の後継者として、都政の場で学校給食の無償化を訴えて都から学校給食への財政支援を勝ち取ってほしい」と言われました。私が当選する直前に行われていた昨年9月の都議会第三回定例会では、都議会立憲民主党から都知事に対して学校給食の無償化を訴えましたが、答弁は非常に消極的。なかなか短期的に実現するのは難しいと感じていました。

### 『立川ショック』で都政が動いた。

昨年9月の立川市長選挙で酒井大史現市長が自民党系の候補を破って当選。そしてその後、10月に行われた都議会補欠選挙で私が自民党の候補を破って初当選を果たすと、マスコミ各社がこの2連勝を「立川ショック」と報じました。

そして昨年11月、都議会第四回定例会開会の前日、小池知事から驚きの発表が!なんと小池知事から「学校給食の無償化のために各自治体を財政的



鈴木 烈

酒井 大史 市長

に支援する」との表明がなされたのです。小池知事のわずか2か月での方針転換の理由として、様々な憶測が語られています。中でも有力なのは、「立川ショック」です。このまま学校給食の無償化問題を放置すると与党が選挙で負け続けるのではないかと、との危機感から、与党と小池知事が選挙の争点つぶしのために方針転換したと言われています。

その後立川市では、小池都知事の表明を受けて、酒井市長が公立小中学校全校で、2024年4月から学校給食を無償化することを決断。全会一致で市議会の承認を得て、学校給食の無償化が実現しました。私が都議会の場で議論を闘わせた成果ではありませんが、全力を尽くして闘った選挙結果で都政が動いたわけで、とても嬉しく思っています。私や酒井市長を応援してくださった幅広い立川市民の皆さんの勝利です。

とはいえ、私の3つの選挙公約のうちの1つが実現したに過ぎません。非正規雇用問題、PFAS問題、そして都議になって地域の皆さまからご要望をいただいている昭島市の巨大物流倉庫問題など、取り組むべき課題は山積しています。今後もひたむきに、都政の課題に取り組んでいく所存です。



# 都議会立憲民主党、小池都知事の 2024年度予算案に反対票を投じる！

2024年2月から3月にかけて行われた2024年度都議会第一回定例会についてご報告します。第一回定例会では、小池都知事から提案された予算案について審議しました。私たち都議会立憲民主党は、侃々諤々の議論を行った結果、予算案に反対いたしました。「立憲民主党はいつも反対ばかりだから」とよく言われますが、東京都の予算案については、小池都政の2期8年間賛成を続けてきました。

新聞でも報道されましたので、市民の方々から「7月に都知事選挙があるからでしょう？」とか「都知事の学歴詐称問題が原因ですか？」ときかれますが、それは違います。私たちは党利党略ではなく、純粋に予算案の中身を精査した結果、この内容は東京都全体のために良くないと判断したのです。

大きくまとめると理由は3つです。**まず都知事選挙対策のバラマキがひど過ぎること**。都知事は今年度の予算のために7,001億円という巨額の基金を切り崩して予算を編成しています。この金額は、このペースで基金を取り崩すと残り2年弱で基金が枯渇するという深刻なものです。

**二つ目が新型コロナウィルス対策の検証や総括を全く**

**行おうとしないまま、新しい感染症  
予防計画を作成してしまったこと**。

昨年新型コロナが第5類感染症に移行され、新型コロナ対策もようやくひと段落ついたところです。こういうときにこそ、過去行った様々なコロナ対策を検証、総括した上で、今後の新型コロナウイルスの再来に備えるべきですが、都は検証や総括を頑なに拒んでいます。私自身も厚生委員会で、新型コロナの感染拡大期にICU(集中治療室)や病床が足りず大混乱に陥ったことを指摘し、都内のICUや感染症病床はそもそも足りていたのかを問いましたが、担当部門は答弁できず。必要なICUや病床数も把握しないまま、関係機関の連携強化やDX促進だけで全てを解決できると考えるのは、あまりに根性論的で危険です。

**三つ目が小池知事の政治姿勢です**。かつて小池知事の大対抗勢力であった自民党が、小池知事と連携を深めるにつれて、知事は野党に対してますます傲慢になっています。知事に対して厳しい質問をすると、知事は答弁に立たない。これでは議論を尽くして良い予算を作れるわけがありません。



## 国・都・市で連携！

さきに言及した酒井市長以外にも、私鈴木烈は、大河原まさこ衆議院議員や多くの市議会議員の仲間と連携して活動しています。写真は、大河原まさこ衆議院議員の協力を得て、昭島市で計画が進められている巨大物流倉庫「GLP昭島」問題について、内閣府担当者からヒアリングしている様子です。

## 鈴木 烈 れつ 七転び八起の人生だから、 あなたの悲しみ、憤りに共感します。



娘と溪流釣り



ネコと自宅で

- 1973年、現在50歳。大阪生まれ町田市育ち。柴崎町一丁目在住。
- 早稲田大学法学部卒業。慶應義塾大学大学院SDM研究科修了。(中学受験は全敗して公立中へ、大学院は社会人として働きながら)
- 住友銀行、松下政経塾、葛飾区議。32歳で区長選挙に挑戦するも次点落選。いったん政治の道をあきらめて、友人を頼り台湾へ(住友銀行では壮絶なパワハラに。区長選挙落選で1000万円の借金を背負う。)
- 台湾、中国でレストランを展開する台湾のベンチャー企業に参画。一度は追放されそうになるが、仕事の成果が認められて社長に就任。2016年にはCEOとして株式公開を実現。
- 2019年に帰国。再び政治の道を志し、2021年の都議選(町田市選挙区)で立候補するも次点にて落選。2023年10月の都議補選(立川市選挙区)、旧知の酒井市長とのご縁で立候補、91票差の僅差で当選。
- 家族は、妻、娘(中2)、保護ネコ2匹。趣味はラジコンレース、溪流釣り。



立憲民主党 東京都議会議員(立川市) **鈴木烈** 事務所 〒190-0023 立川市柴崎町 3-10-6 イチカワビル 102

TEL 042-506-1788 FAX 042-506-1789 MAIL office@retsu.jp WEB retsu.jp

(プレス立憲民主号外) 発行: 立憲民主党「プレス立憲民主」編集部 〒100-0014 千代田区永田町 1-11-1-6F TEL03-6261-0435